

読賣新聞

2005年(平成17年)8月18日 木曜日

宮城県沖で16日に起きたマグニチュード(M)7.2の地震について、政府の地震調査委員会津村建四朗委員長は17日、「M7.5前後の地震が30年以内に起きる確率が99%」と想定されている宮城県沖地震とは別の地震だったとの見解を示した。想定震源の予測も、現時点では変更し

「想定宮城県沖地震とは別」

16日M7.2地震

この日の臨時会では、気象庁など各機関から提出されたデータを総合的に検討した。余震が想定震源域南部の狭い範囲にとどまり、震源域の一

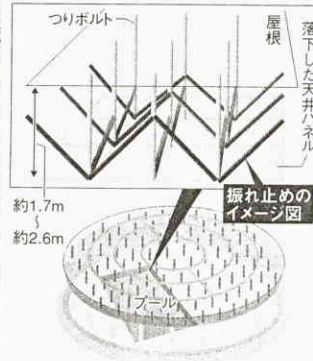
部しか動いていないとみられることや、想定した通りの震源域で起きるかほかからず、その発生に今回の地震がどう影響するかも、現時点では不明だ。

政府調査委 規模、78年の半分

「振れ止め」見つかからず 耐震設備 国交省は設置を通知

宮城県沖を震源とする最大震度6弱の地震で、26人が負傷したスポーツ施設「スポパーク松森」(仙台市泉区)の天井崩落現場が、震対策について「検査の對象外として確認していない」として確認していない。国交省が耐震設備の設置を通知した。また、今回の国交省の調査で、施設の壁と天井の間のすき間が5センチ未満、遊びが十分なかった可能性が指摘された。すき間が小

は全都道府県に出した通知で十分なすき間を設けるように改めて求めている。同省の通知は、宮城県を通じ仙台市にも伝わっていた。しかし、市は昨年5月、設計図の内容を確認した際にも、施設完成後の今年6月にも、通知に沿った耐震確認は行わなかったという。通知は民間施設も対象となるが、守らなくても法令違反には問われない。同市都市整備局の保科学局長は「耐震確認は建築基準法に基づき検査項目の対象外



宮城地震 女川原発 想定を超える揺れ

宮城県沖を震源とする16日の地震で自動停止した東北電力の女川原発で、設計で想定する最強地震を超える揺れの強さ(加速度)を記録していたことが、17日わかった。

東北電力によると、女川原発の最強地震は50ガル。16日の地震で、1号機にある地震計が51ガルを記録した。このため、保安規定に基づき、1〜3号機は点検中で、運転再開のメドは立っていない。原発は、立地地点で過去1万年間に発生した地震などから、起こりうる最大の揺れの「設計用最強地震」を、施設の耐震基準として

1〜3号機停止、点検中

総務省消防庁などによる8都県で重傷7人、軽傷75人の計82人となった。住宅被害は全壊1棟、一部破損

Dr.Scholl

うおの目対策に、ドクター・ショールの新発想。

ジェルでうおの目を
目立たず治療する
「ジェルコーンリムーバー」

Dr.Scholl

ジェルクォールは55年、インターナショナル社の登録商標です。

総務省 企画部 エスエスエルヘルスケア(株) 株式会社
www.drscholl.jp フォトクア相談室 TEL.0315468-2330